

まほろば

池田のりを

佐保川を渡ればそこは花の里
こぬか雨花の香ほのと旅の宿
花なれば塵とて美し明日香かな
まほろばの大和三山八重霞
雲疾し行方の翳る蜷の道
みささぎの日照雨にけふる遠蛙
夕暮や馬酔木の花の道しるべ
月朧御陵ふはりとふくらみぬ
額を打つ桜吹雪の重さかな
残花舞ふ女人採灯護摩供へと
手にとくどく浮世を漱ぐ苔清水
円墳へ道のなだらか若緑